

救いの証

水草こず江

私は、7歳の時に病気で父が亡くなり、母は女手一つで兄3人と末娘の私を育ててくれました。私は、母の事が大好きでした。兄たちも幼くして父親を亡くした私を特に可愛いがって育ててくれました。ところが私が高2の春、母は食事が進まなくなり、秋には、入院、手術をしましたが高3の6月30日胃癌で亡くなりました。50歳になったばかりでした。母が亡くなり生きる気力そのものが無くなりました。「人は何のために生きるのだろうか」と答えのない問いを心に繰り返していました。

夏休みが明け、学校に行くと私の周囲の友達、受験勉強に熱心に励んでいましたが、私の心は悶々としておりました。当時高校にはアメリカ人のファンダ宣教師が英語を教えに来られ、ハウスパーティの案内を頂き軽井沢にあったデニス宣教師の家庭での集会に友達と参加しました。神様のこと、イエス様のことを聞き、聖書を買って求めました。小学生のとき日曜学校に通ったこと、母の箆笥から黒い布張りの角が擦り切れた新約聖書を見つけたこともあり、バイブルクラスと教会に通い聖書を読みました。起きている時間は全て聖書を読む事に費やすぐらいの勢いで一度通読しました。ヨハネ福音書を勧められ、読んでいた夜、主イエスの言葉が胸にスーと入って来ました。「わたしはあなたがたを捨てて孤児にはしない。」ヨハネ14：18 私の生みの親はいなくなってしまうけれど、私を造られた、この世に誕生させてくださった親、神様は私を孤児にはしないと言っておられる、この方を信じて生きていこうと思いました。神様が私を見ていてくださると思うと喜びと希望と安心感がありました。また、イエス・キリストの十字架と罪についても質問しイエス・キリストだけが、救い主であることも学びました。

私は母を喜ばせたい、恥ずかしい思いをさせたくない、小さい頃から「いい子」でありたいと努力しました。「心をこめて喜んで下さい」と言われるのですが、評価される、感謝されることがないと心には、不平、不満をもち、人を非難し、裁く偽善者である自分がいました。また、高校に入学してすぐ担任の先生が「何のために生きるか、何のために勉強するかは大学へ行ったら解かるから、大学入学目指して勉強して下さい。」と言われ、虚しさを感じていた私は、勉強に身が入りませんでした。初めて母から「勉強して下さい」と言われ、その一言にやり場のない思いをぶつけ反発し、一ヶ月間、母を非難し必要最低限の会話しかしませんでした。母に甘えているのだと気づき、母も良いところ、悪いところのある一人の人となんとなく納得し気持ちが落ち着きましたが、自分のことは棚に上げていたので、深く反省もせず、きちんと謝らないまま、あやふやにしまいとでも後悔しました。このような愛のない自己中心的、わがままな心、ねたみや、傲慢な心、偽善が湧き出てくる、これが罪だったのだとわかりました。

イエス・キリストが私の罪のために十字架で罰を受けてくださり、3日目に蘇られたこと、このイエス・キリストを信じる時、全ての罪が赦され永遠のいのち、天国へ入れてくださ

ることがわかり、私の救い主と信じることができました。

1977年11月20日18歳のとき斎藤成美牧師から日本同盟基督教団軽井沢福音教会、現在は軽井沢キリスト教会で洗礼を受けました

「神は実にそのひとり子をお与えになったほどに世をあいされた。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ヨハネ福音書3：16

。